

2022年度プログラム・オフィサー育成研修

東近江三方よし基金の事例から

～「事前評価」という名の出発式！～



<https://3poyoshi.com/>

(NPO法人)

多くの難病の方は、公的なサービスを受けられておらず、そんな方が相談し生きがいを見つけるられるような場所がほしいです。

(一般社団法人)

子育て中の方をサポートしてきたが、もっと多世代が出会い、交流するきっかけを創出していくたい。

(任意団体)

一見わかりにくい障害を持つ子どもたちは、普通のスポーツクラブに行っても続かないんです。

(NPO法人)

多文化共生は、日本人が地域に一緒に住まう方々に興味を持つことから始めるべきなんじゃないかな。

(NPO法人)

移住してきた方々がどんどん心細くなってしまって集まれる場所がないんです。移住者もいきなり引っ越しはハードル高いし....。

(一般社団法人)

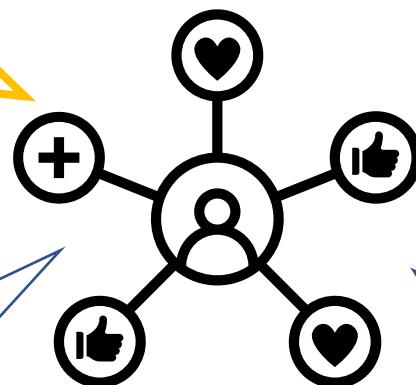
8050が現実味を帯びてきて、一人暮らしを経験したことが無い方や緊急避難が必要な方にとって「家」という器が必要。

(任意団体)

産前産後の女性をサポートする共同助産所をオープンしたが、次世代の助産師を育てる仕組みが不十分なんですね。

(任意団体)

地域の交通弱者を救うために、みんなでバスを走らせたい。





一見わかりにくい障害を持つ子どもたちは、普通のスポーツクラブに
行っても続かないんです。
だからそんな子たちが来られるサッカークラブを作りたいんです。
でも...本当は...。

東近江FCレジリエンス
高橋平さん

とにかく会いましょう！(^^)

PO「こんな事業を公募してるんです！」

- ・公募要領とロジックモデルを説明

たいちゃん「自分が考えていたものにぴったりです！」

- ・親御さんからの生の声を見る化
- ・やりたいと思っていた事業を整理



たいちゃん「提案書がうまく書けないです…。」

- ・現状の課題はある程度記述できたが、アウトプットとアウトカムの違いがよくわからない…。

PO「アウトプットは自団体が主語、アウトカムは対象者が主語。こないだの図もそ
うなってるんですよ。」

たいちゃん「へ～こないだの図、わかりやすかったから自分で作ってもいい？」



申請段階でロジックモデルを作成し、申請書類を仕上げた。



採択が決まり、契約を終え、さあ面談スタート！！

評価なんてやったことないから、何もわからないんです。
大丈夫ですかね？

とにかく会いましょう！(^^)

東近江FCレジリエンス
高橋平さん

PO「たいちゃんの本当に実現したいことって何？」

- ・作成済みのロジックモデルを見ながら確認

たいちゃん「本当は僕のチームじゃなく、どこのチームでも受け入れてもらえる地域にしたい！」

PO「でも、どうして受け入れてもらえないんでしょうね…。」

- ・指導者の問題？保護者の問題？

たいちゃん「指導者がどんな経験してるのか、どんな思いなのか聞いてみたいと思ってるんです。あと、うちに来てない子どもたちの親御さんの現状や思いも知りたいんです。」

PO「アンケートとか取れるかな？」



たいちゃん「とれます！スポーツ推進委員になれたし、学校にも頼める。でも集計したり分析は知り合いにお願いしたいんです。でも少しお金が…。」

PO「それはいい！！評価関連経費から出しましょう。」

たいちゃん「それなら早速やります！！」

～それから一月後～

たいちゃん「アンケート集計出来ました！指導者の声は想定内だったけど、保護者の声は想像以上に悲痛でした…。」

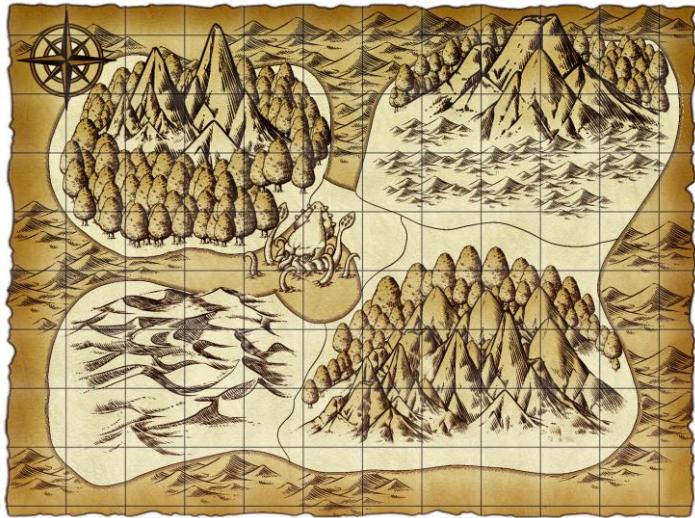
PO「保護者さんたちで話せる時間があるといいね…。」

たいちゃん「僕もそう思います。ロジックモデルに、保護者さんたちが安心して暮らせる地域を目指したい、という項目を加えたいんです。いいですか？」

PO「そうしましょう！そのためにどんな取り組みができるかな？…」

・ロジックモデルを少し変更

たいちゃん「ところで山口さん、事前評価って何すればいいですか？？」



作業といわれると
...やらされ感
満載

事前評価とは...?

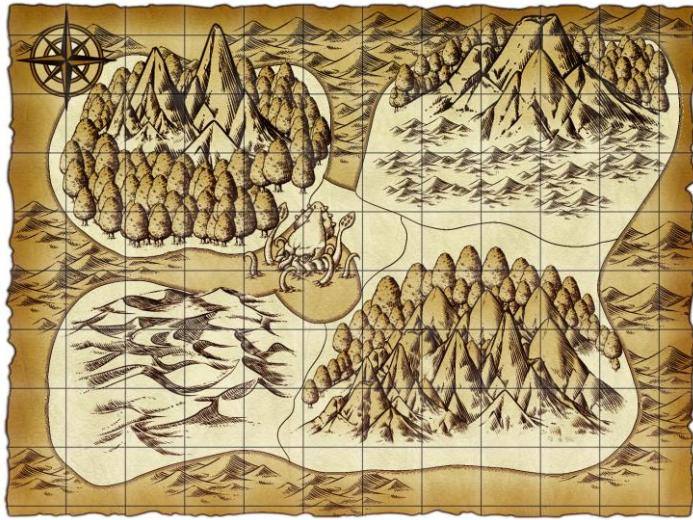
①長い航海の地図を作ること！

- ・どこを目指すか
- ・どのルートでいくか
- ・障害はあるか

②現在地を知ること！（スタート地点）

- ・正確な位置を客観的に把握

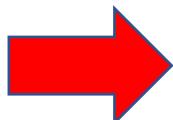
あくまで
作業！



長く困難な旅路を
成功に導くために

地図を持ち
現在地を知ることは大切

でも、そうして得られたものは
困難を乗り越えることに
間違いなく役に立つ！



つまり！
評価で得られたものを、困難を乗り越えるために
利用しない手はない！

たいちゃんの取ったアンケート結果は
その後、指導者や行政職員に共有されました。

その結果、10月週末は毎週講演に呼ばれる日々だ
そうです。

行政の担当課では、国体開催に向け、初めて障害
スポーツについて考えるテーブルを持つことにな
りました。

たいちゃんの航海はまだ始まったばかりですが、
実現したい理想の地域に向かっている確信が持
てるようになりました。

たいちゃんは、この手法を知り合いにも広め始め
ました！（これはPOも想定外(笑)）

評価 = 作業

目的を達成する
ための手段



評価で実現できる「あんなこと、こんなこと」

ロジックモデルは、航海途中で迷子にならないために常に面談時に確認しています！
(ロジックモデルを作成)

見える化できたアウトカムを行政に知ってもらえば、政策実現につながるかも！？
(行政向けの報告書作成)

見える化できたアウトカムを広く社会に知らせることで、周りの意識を変えられるかも！？
(課題と一緒に白書として出版)

ロジックモデルを法人の役員と共有することで、事業の意義を確認することができました！
(ロジックモデルを作成)

見える化できたアウトカムを使って、活動の意義を知らせ寄付集めを実現する！
(寄付集めのパンフレット作成)

新たに見つかった課題を再検討し、次の活動の見直しにつながった！
(ロジックモデルの再構築)

アウトカムはまだまだ道半ばと分かったので、新たな航海に出ることを関係者で共有した。
(成果と課題から次の企画書作成)



「アウトカム」の憂鬱

Q 評価は専門家でなければわからない？

A いいえ、ヒントは全て現場にあります！実行団体との対話の中に答えがあります。しかし、専門家がいるとその表現方法が劇的に変わります！だから私たちは、現場に来て同じ空気を感じてくれる専門家と連携します。まだ見ぬ「原石」を見つけ出し、世に出す作業...「アウトカム」の憂鬱を共有してくれる仲間を見つけましょう。

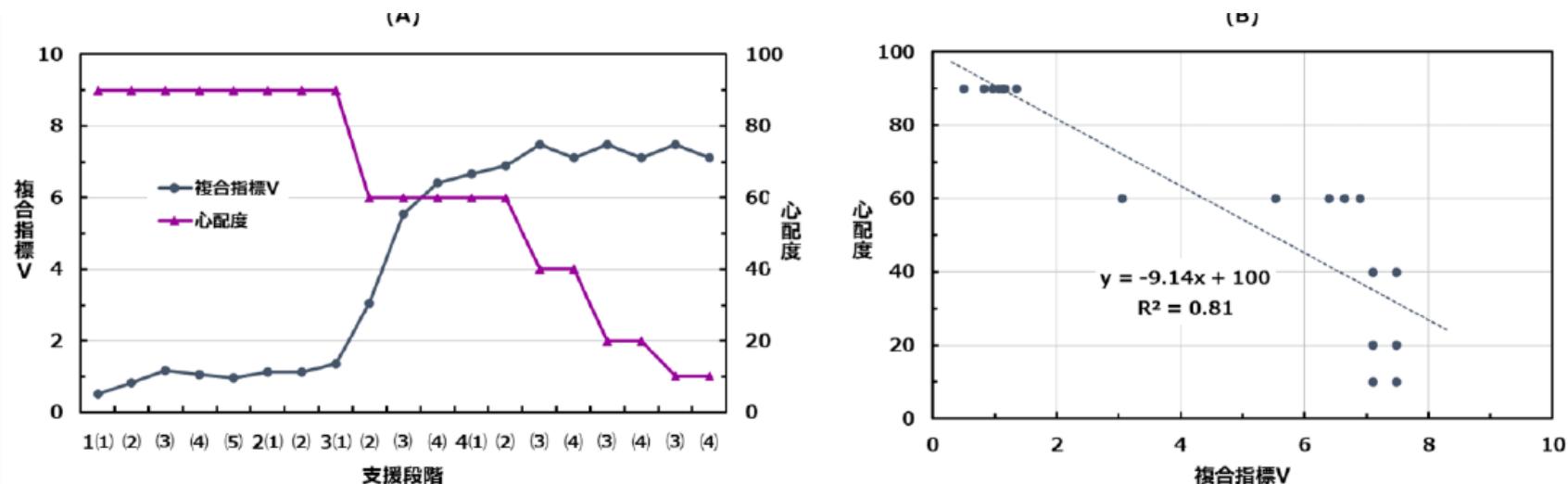


図 12 Norishiro の複合指標Vと心配度

あなたは何のために評価を行いますか？